

人

人

むかしのかんま

はやかりとなえごは

よこむいて

人がたつてる

かたちだよ



人は、よこむきに立った「ひと」のすがたからできた字。

むかしのかん字を見ると、それがわかるよ。

かきしゅん 2かく

ノ人

ひらのびと

人びと・人里・人口・人生・名人・
老人・人間・人数・人形

子

むかしのかんま

シ・ス

は

てをひろげ

あたまのおおきい

子どもだよ



子は、手をひろげた、おさない「こども」のすがたからできた字。まだおむつをしている、あかちゃんだ。

むかしのかん字からも、大きなあたまと、ひろげた手が、よくわかるね。

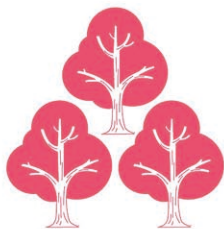
かきしゅん 3かく

マ了子

ひらのびと

子ども・親子・年子・男子・女子・
調子・王子・子孫・様子

森



むかしのかん字



はやわかりとなえことば

みつつの木

かいて

あらわす

森のもじ



ふたつの木をかけた林は、木がたくさんあるところ。

木が三つあつまつた森は、かぞえきれないほど、おおくの木があるところ。

かきしゅん 12かへ

一十オホ木々々々々々々々々森

ひらひらひら

森林・森羅万象

竹

はやわかりとなえことば

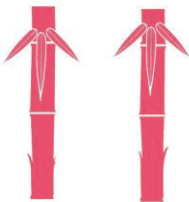
竹にほん

ならんで

たってる

かたちだよ

むかしのかん字



竹の、むかしのかん字を見てごらん。葉が、下にたれているかたちだね。「たけ」は、木とちがって、ふゆでも葉をおとさないんだ。そして、「たけ」は、一本だけでなく、地中でつながって、いっしょにたくさんはえる。それで、竹は、二本ならんでいるかたちなんだよ。

かきしゅん 6かへ

ノムキヤヤ竹

ひらひらひら

竹の子・竹やぶ・竹林・松竹梅

山

サン


 ザン

むかしのかん字

はすむかじととなえことば

さんかくの

てつぺん

とがった

たかい山

やま

山は、たかい「やま」が、いくつもつらなっているようすからできた字。

富士山のように、ぼつんとひとつだけたかい山は、あまりなくて、だいたい、うねうねとつづいている。そして、山のふもとの地べたは、地球につながっている。

それが、山の字なんだね。

〇 かきしゅん 3 かへ

一 山 山

〇 11画のばじ

山国・山場・雪山・山菜・火山

雨

ウ


 ム

むかしのかん字

はやわかりとなえことば

くもがでて

ぼつぼつ

ふりだす

雨のもじ

あめ

雨は、くもから「あめ」がふっているようすをあらわした字。

「てん、てん、てん、てん」が、雨つぶだ。

〇 かきしゅん 8 かへ

一 一 雨 雨 雨 雨

〇 11画のばじ

大雨・通り雨・雨音・雨雲・雨天・雨期・風雨

くんま
うえ・うわ・かみ
あがる・のぼる

上
上

むかしのかん字

ジョウ

はやわらじとなえて

てのひらの

うえは

ここだと

上の もじ



つくえの上、やねの上。それよ
りもずっと上の、くもの上。いろ
んな「うえ」があるね。
その「うえ」を代表して、「て
のひらの上」であらわした。
それが、むかしのかん字の、
というかたちだ。

かきしゅん 3かへ

ト上

ひら

年上・上着・川上・上げ底・上り坂・
上下・上空・屋上・以上

くんま
した・しも・おりる
くだる・ヤがる

下
下

むかしのかん字

カ・ゲ



はやわらじとなえて

てのひらの

したは

ここだと

下の もじ



大空の下、やねの下、つくえの
下やベッドの下。いろんな「し
た」があるね。
その「した」を代表して、「て
のひらの下」であらわした。
それが、むかしのかん字の、
というかたちだ。

かきしゅん 3かへ

ト下

ひら

下じき・下着・川下・下り坂・下流・
天下・地下・上下・下校

右

ユウ・ウ



むかしのかんず

はやわかりとなえことば

ねがいを

こめて

うつわの **ひ**を右の **て**に

もつ



はりたち

むかしの人が、いのりのことは
を入れたうつわを手にもって、
「神さま、どこにいますか」と、
たずねた。その、うつわを手にも
つかたちが、**右**という字なんだ。
右手のかたち(**又**)と、うつわ
の口(**口**)があわさったかたち
だよ。

○かきしゅん 5かへ

ノナオ右

○ひだりのかんず

右手・右側・左右・右折

ひだり

左

サ

むかしのかんず

はやわかりとなえことば

かみを **よぶ**

どうくは

左の **て**に

もった



はりたち

おおむかし、右手(**又**)に、い
のりのことばを入れたうつわをも
ち、左手には、神をよぶ「どう
ぐ」をもって、いのった。
左の字のなかにある **工** が、その
どうぐだよ。

○かきしゅん 5かへ

一ナオ左

○ひだりのかんず

左手・左側・左右・左折

大

大

むかしのかん字

はやわかりとなえこぼ

てと あしを

大きく ひろげ

大となる



小

小

むかしのかん字

はやわかりとなえこぼ

てん、てん、てん

この かい

みんな 小さいよ



大は、人が、まえをむいて、立っているすがたからできた字。手足を大きくひろげているよ。

！大に、「あたまはこたよ」としめたのが、天。

大に、立っているじめんのせんをかけたのが、立の字だ。

○かきしゅん 3かへ

一 大

○ひらひらひら

大雨・大地・大金・大事・大臣



小は、ちいさな貝や玉が、ばらばらにおいてあるかたち。
むかしのかん字は、それを「てん、てん、てん」と、三つかいてあらわした。

！この貝や玉をひもでつづったかたちが、「少ない」の少という字なんだ。

○かきしゅん 3かへ

一 小

○ひらひらひら

小川・小声・小鳥・小学生・大小